

フィールド自治体型政策研究会 Topics No.3

第3回政策研究会〈令和元年6月25日 桑折町〉

桑折町のキーパーソンの方からお話を伺いました！

第3回の政策研究会では、桑折町の魅力を高めてこられた地元の担い手の方々からパネルディスカッション風にお話を伺うことにしました。

① 商工関係

桑折町商工会青年部 前部長 鈴木 堅之

割烹仙台屋 5代目当主

「桑折町をどう担っていくか」を真剣に考えなければならない世代として、それを糧に活動（挑戦）している。

② 農業関係

はねだ桃園 代表 羽根田 幸将

「はねだ桃園」代表 3代目当主

「献上桃の郷」の桃専門生産農家の若きエース。山形にて教育関係の仕事をした後、家業を継ぐ。

③ 地域づくり

(株)ふるさとエール桑折 石幡 政子

桑折町振興公社に20年在籍し、その間、様々な桑折町の「まちづくり」に関わる。その後、桑折町を良くしたいと思うメンバーが立ち上げた(株)ふるさとエール桑折にて活躍中。また、居酒屋「蛸」を営むとともに、(株)ふるさとエール桑折が指定管理者として受託した「うぶかの郷」の支配人を勤めている。

④ 当センター

総括支援アドバイザー兼教授 奥原 英彦

本会のコーディネーター



桑折町の魅力の訴求

鈴木氏 事業を行う際には、桑折町の歴史や文化を取り入れながら活動・発信をしている。「ふくしまバーガーサミット」もご当地の昔からある魅力を新たなものにブラッシュアップすることを心がけて出品・運営している。

羽根田氏 「献上桃の郷」の桑折であるが、20数年天皇家・宮家に桃を献上している背景がすごい。桑折町を日本一の桃の名産地としたい。桃だけで喰える農業モデルをつくりたい。

石幡氏 桑折町には町に残って頑張っている若い人がすごくいる。この若い人たちの意識を「桑折町すごいよね」と言わしめる何かが大事になると思う。若い人たちの口から「桑折町はこのようにすごいんだよ」と町の内外の方に伝えられる、そういう仕掛けが大事だと思う。

桑折町の魅力をどのように伝えるか

鈴木氏 桑折町内の方に魅力を伝えるには、小学生や中学生に「桑折町ってカッコいい。何か他の町と違う。」と思われる取り組みが必要。それには、民間の30代、40代の若いメンバーから提案の声がどんどん出てくるのが重要。また、町や諸先輩方のキャッチアップ体制も必要。

石幡氏 桑折町の魅力を伝えるには、私たちの世代の経験則や知識で言えることもあるが、新しいことを知らないとバックアップできない。私たち世代が持っているもので、本当の意味でのバックアップとは何かを見極める必要がある。そのためにも、一緒に勉強会を開くなど情報を共有する場が非常に大事だと思う。

桑折町にあっという間と思うこと

羽根田氏 私たちは、福島県というよりも、さらにピンポイントで桃なら「桑折」と言って欲しい。例えば、「桑折ジャンクション」との名称が決

定したが、「ピーチ」的なネームを入れて「桃の桑折ジャンクション」とか、それくらいでなければ、世の中に埋もれてしまう。

お話を伺っている全景



キーワード&キーパーソンの存在

鈴木氏 商工会青年部の事務局担当者から様々な視点での問いかけや指摘があり、おかげでバーガーサミットが2014年～6年連続開催できている。家業においては、新たなビジネスパートナーが出現し、自分自身の可能性を試してみたいと思っている。

羽根田氏 原発事故による風評被害、来年のオリンピック、益々注目されるGAP。困難を乗り越えてGAPを取得したことを発信し続け、目立ちたいと思う。頑張っている姿を見て、（桃農家を志す方々が）後ろからついてきてくれたら一番嬉しい。

石幡氏 （株）ふるさとエール桑折のメンバーそれぞれが重要な役割を担ってきた。「街道祭り」「軽トラ市」など様々な仕掛けをしてきた。「辛口桑折」という日本酒も醸造した。また、過去に携わった仕事関係の方が損得抜きで桑折町を応援してくださったり、他の地域を知る公務員OBの方も情報と繋がりをもたらしてくれている。

桑折町の魅力をより高めるために必要なこと

石幡氏 桑折町は「献上桃」がある。献上桃だけでなく、他にもオンリーワンがあるといい。これから作り上げていく必要がある。その際に大切なことは、ネーミングと物語である。物語を語れないとブランドにならないと認識している。モノ、ヒトでもいいが、「桑折町にこういうヒトがいる」ということも、すごく大事である。

羽根田氏 「献上桃の郷」という商号取得に至っているが、そこに至る背景がすごい。困難を克服しながらの土地づくりがあり現在にいたっている。もっと誇りたい。「桑折」という地域の名前を商品の中にプロデュースして入れていきたい。

お話を伺って

桑折町の魅力を高めてこられた、さらにはより高めようとしているお話を伺うことができました。

桑折町をさらに魅力的にするには、どこにでもある「まち」ではない「まち」。「まち」をかけがいのない存在にすることがとても大事であることを改めて認識しました。

私たちは、河井孝仁教授が提唱する「地域魅力創造サイクル」&「メディア活用戦略モデル」という発想を基に、桑折町のプロモーションを提案しようと考えていますが、その発想がとても有用であると意を新たにしました。

まずは、「桑折町」の魅力の認知、共有、編集を経て、桑折町を「語れるもの」にするためのワークを実施し、桑折町にとってのオンリーワンの「まち」とはどのような「まち」なのかを探っていきます。